

# 平成 27 年度 第 1 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

## 議事概要

### 1. 検討会の概要

日 時：平成 27 年 6 月 25 日（木）13:00～15:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 4 階 407-1、2 会議室

出席者：林座長、岩田委員、牛山委員、鍵屋委員、国崎委員、黒田委員、向後委員、丸谷委員、渡邊委員、  
日原統括官、兵谷審議官、中込企画官、金谷企画官、田平企画官、長沼参事官補佐、  
柳橋参事官、後藤企画調整官

### 2. 議事概要

林座長からの挨拶、事務局から平成 26 年度の企画検討会報告等ののち、議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

#### （1）平成 27 年度企画検討会の検討項目とスケジュールについて

- 示された検討項目とスケジュールにより、今年度の取り組みを進める。

#### （2）防災研修コーディネーターについて

##### ■コーディネーターの配置と支援体制について

- 本検討会委員に限らず、コーディネーターをお願いすればよい。コーディネーターの役割は大変であるため、適切な支援があるとよい。
- 本検討会委員以外でコーディネーターをお願いする場合、企画検討会での議論を理解してもらう必要があるため、事務局より H25 年度と H26 年度の報告書により丁寧に説明すべき。

##### ■コーディネーターの役割について

- コーディネーターには、各コースで教えるべき内容の範囲をもとに、どのように講座を組み立てればよいか検討してもらう。

- コーディネーターには、担当するコースの各講師に対し、講座の学習目標と教えるべき内容の範囲を示し、各講座で適切な講義が進められるように調整する役割を担ってもらう。

#### ■研修指導要領について

- 「指導要領」では教えなければならないことが示され、指導要領に基づき「教科書」が作られる。教科書をどう教えるか示しているのが、「学習指導案」である。
- 指導要領は、標準テキストに収録すべき内容を決めるもの。今年度は、「防災基礎」、「警報避難」、「減災対策」、「避難収容・被災者支援」の4コースのテキストの内容を精査するとともに、指導要領を整備すべき。
- 資料3-5の構造化表は、各コースで教えるべきことを示したものであり、指導要領の原案といえる。
- 「防災基礎」を各地域で行う際、研修の基本的なコンセプトが地域によって異なるのは困るため、教えるべき要点を整備しておく必要がある。

### (3) 講座の見直しの検討

#### ■各講座の見直しについて

- 資料3-3の「海外からの支援の受け入れ」について、海外と協定を結んでいる自治体もあるため、研修で教えるとよいのではないか。
- 災害時の救出・救助・医療・救護活動という一連の災害応急対策計画の流れについては、研修で教えてもよいのではないか
- 救助・救急、医療、消火など内閣府で主管していない活動は、「防災基礎」で基礎的な知識に限り教える。
- 海外からの支援受け入れや災害応急対策計画の流れは、「計画立案」で教えればよいのではないか。
- 「②減災対策」コースでは、減災対策の基本的な部分が抜け落ちないように、「各省庁の減災対策」を入れた。
- コーディネーターの意向で、必要な講座を入れる方法も可能と考える。

#### ■総合管理における各コースの位置づけについて

- 「⑧計画立案」、「⑨広報」、「⑩総合」の3コースについて、⑧では、ICSという「プランニングとロジスティクス」を扱えばよいのではないか。⑨では、広く対社会、他の防災関係機関との調整や連携、広報・安全管理を含む、「コマンド」を扱えばよいのではないか。⑩は、取り組むべき各種の防災活動

を、「わがまちに置き換えて考え、取り組む（実践）する」コースとしてはどうか。

#### （４）eラーニングの整備の検討

##### ■LMS システムの整備について

- 情報漏えいなどシステムの運営や情報管理上で生じるトラブルには、専門技術者による対応が必要となることもあるため、自分でサーバーを持つよりも、何かあった時に業者側で対応してもらえるASP型のほうが良いのではないか。

##### ■コンテンツ作成に関して

- コンテンツはナレーターによるスライド型ではなく、専門家が自分の顔を出し、自分の言葉で説明することが効果的である。
- 講義動画は、講師が自然体で講義を行っている様子を収録するのがよい。
- スタジオ撮りで作成したコンテンツは、1対1で先生と対話しているような雰囲気が出る。教室撮りで作成したコンテンツは、臨場感が出て良い。
- 撮り方は、1セクションを15分がよい。15分以上は受講者が見ない。
- 1セクションにイントロ（導入）、ボディー（本体）、コンクリュージョン（結論）を入れ、最後にクイズを行うとよい。15分の視聴の中で、学習したことが身についているかどうかクイズで試すことができるとよい。
- クイズで全問正解できて100点となれば、受講者にとっては、次の学習に向かう動機づけとなる。
- 受講者が短時間の中で学んだ内容を定着化でき、次のモチベーションにつなげることができるコンテンツを整備すればよい。

##### ■eラーニングと施設研修の組み合わせについて

- eラーニングだけで完結するコースを作るという考えは理解できる。
- 「防災基礎」について、施設研修の受講資格を与えるeラーニングと、eラーニングだけで完結するコースの2種類を用意すれば良いのではないか。
- 反転学習を取り入れてもよいのではないか。「防災基礎」をモデルに、教科書の内容はeラーニングで学び、施設研修では、ディスカッションを中心として行う研修方法を考えてもよいのではないか。
- 一から教材を整備するのは手間がかかるが、講義動画であれば比較的整備しやすいのではないか。90分授業は、15分×4コマの講義動画にまとめることができる。

- 1年目に講義を収録して講義動画を作成し、2年目に動画から講義内容の文字を起こしてテキストを作成し修正することで、無理なく教材を作る方法もある。

以上